

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、管理者とスタッフは常に利用者の立場に立ち、心身の安寧を守るよう理念を共有し、実践できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれる、祭りや盆踊り、文化祭などに、地域の一員として積極的に参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域へ出て行くことにより、認知症があっても、住み慣れた地域で生活することが可能なことを、発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年、6回の運営推進会議では、日々の状況や行事を報告したり、避難訓練を行ったり、災害時には、協力が得られるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情などを報告。議事録などを市役所へ提出したり、又、何かあれば相談をしたりと、常に連携を取り協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考え、見守りを基本に、言葉遣い、声掛け、行動に気を配り身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者はすべての職員が高齢者虐待防止法等について学べるよう努めている。又、虐待が見逃されないよう、管理者や職員は、お互いの言動やストレスに注意を払ったり、利用者の小さな変化に気付けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が学ぶ機会を持てるように、研修会に参加し、内容や情報などを、周りに報告する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて十分な説明を行なっている。又、疑問点や不安な事があれば、その都度、丁寧に説明し、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見が自由に表せるように、意見箱を設けている。又、面会時など、ご家族が話しやすいように、職員は積極的に話し掛け、コミュニケーションがとれるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の業務ミーティング、又は定期的に個人面談を行い、出来るだけ、意見や提案を聞き、反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を、良く把握、理解出来るよう努め、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量、経験に合わせ、法人内、外の研修を受ける機会を、出来るだけ設け参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、広域連合会など、法人内外の勉強会や事例検討会などへ参加し、意見交換などを通じて、ネットワーク作りやサービスの質の向上になるよう取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の、不安や困っていること、要望等を出来るだけ時間を掛けて傾聴し理解に努め、その人らしい生活が継続できるよう支援し、信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困って入る事や不安や疑問は傾聴し、一緒に考え、対応していくことをお話する。要望等は、状況を見極めながら、出来るだけ叶えられるよう対応に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族の要望や思いを傾聴した上で、今、その人にとってどのような支援が必要なのかを見極め、アドバイスできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしていると感じて頂けるよう、出来る家事などは、自然に行なえるよう支援したり、困っている時には、自然に手を貸せるような、お互いを助け合える関係が築けるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連携を大切にし、入居者様の現状を報告したり、時には、生活歴等の情報を共有したり、御家族にも、出来る支援は協力して頂き、共に支える関係が作れるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活の中で、通っていたスーパーや美容院、病院、老人クラブへ行けるよう支援し、馴染みの人が、変わらず声を掛けてくれる関係が継続されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業や外出、季節行事を通してコミュニケーションを取ったり、利用者様同士、お互い出来ない事を助けあったり、時には上手くいっていないと思われる時は職員が間に入り、関係性が保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族に、手紙や電話などで、その後の経過を伺い、困っている事や悩んでいる事があれば相談を受け、協力できる範囲でフォローするように努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が、言葉にする思いだけでなく、声無き声に耳を傾け受容し、できるだけ一人ひとりの思いに近づけるよう、一緒に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報だけでなく、御本人様との関りの中から、どのような生活をしてきたのか把握できるよう努め、その情報はスタッフ同士が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、動き、言葉などから、心身の変化を見逃さず、職員全員が適切な対応ができるよう、申し送りなどで情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に、利用者様の状態の把握に努め、情報を共有し、月1回のミーティングで、意見を出し合い、ケアプランについて話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を元に、月1回のミーティングで、実践や介護計画の見直しは行なわれているが、日々の様子をもう少し細かく記録出来るようにすると良いと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や、外出、外泊など、御本人様や御家族の状況を考慮し、出来る範囲で支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントや町内の行事など、一人ひとりが楽しむことができる様に出来るだけ参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様が、以前から通われていた病院や、御家族の要望があれば、出来るだけ継続したり、状態によっては家庭医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、ユニット日誌を通して入居者様の状況を報告している。また、週に一度訪問看護があり、その都度看護師連絡ノートに記入したり、口頭で報告、相談し、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ご家族と連絡を取り、状況を確認したり直接足を運んで話を聞く等、日々の状態や退院後の対応を確認している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望、方向性を考慮した上で、関係医療機関に協力してもらいながら、家族への説明と意思の再確認を行っている。ケアの方向性などをミーティングで話し合い、チームとして支援出来るよう努めている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習への参加や、看護師による急変時の対応についての講義など実施しているが、すべてのスタッフが実践力として見につけられているかどうかは、不安が残る。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中、夜間想定避難訓練を実施している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、一人ひとりに合った適切な言葉使い、対応に努めている。親しい関係性が、“慣れ”になってしまわないよう、プライバシーの保護にも努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思っていることを表現しやすい雰囲気作りや、ご本人の希望などゆっくり傾聴し、自己決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日の生活をその方の希望に合わせて送って頂けるよう心がけているが、日によってスタッフの人数が少ない時など、十分に出来ない時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援	毎日の着衣の選択など、ご本人の希望に沿って身だしな			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	みを整えられるよう努めている。また、誕生会や敬老会などの行事の際に、お化粧をしてさし上げるととても喜ばれる方もおり、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物を聞き、メニューに取り入れしたり、その日の状況や体調に合わせて、残存機能を活かしながら食事準備や片付けをしている。盛り付けを手伝って頂く際には、スタッフと好きな食べ物の話など、お話ししながら行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量、食事摂取量を記録に残し、表にまとめ一目でわかるようにしたり、水分量が足りない時などはゼリーや果物を提供している。個々の好みの面で、いつでも細かい配慮が出来るようになれば、もっと良いと思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を元に口腔ケアを実践しており、介助を必要とする方には食後の習慣として行なえている。自立されているがご本人の力だけではケアが不十分な方に対しては、スムーズな支援が難しく、どの方にとっても毎日の自然な習慣となれば、もっと良いと思う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入したり、一人ひとりの時間の間隔に合わせて声かけ、誘導を行なっている。その日の食事や体調により、微妙に変化する排泄パターンに対し、スタッフ同士情報を提供し合い臨機応変に対応できれば、もっと良くなると思う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が促されるよう、オリゴ糖入りのココアや食物繊維の豊富な食べ物をおやつとして提供したり、その他水分量を調整したり等行い、下剤の使用が減ってきており、スタッフ一同が排便に対し関心を持てるようになって来ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やペースに合わせて支援を行い、拒否がある場合は無理強いせず時間を置いて対応する等、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせて、休息をとって頂くよう支援している。また、部屋の明るさや温度など、心地よく休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに処方箋がまとめられており、薬の変更があった時は、申し送りなどで効能や注意事項を伝え、その後の状態の変化などを経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援	気分転換できるよう、ドライブ、散歩、買い物など支援しているが、その日の状況によって十分に配慮出来ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	しているが、その日の状況によって十分に対応出来ない時もある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活習慣の一つとして、散歩や花摘みなど、気軽に外に出られるよう支援している。また、スタッフで対応しきれない部分はご家族の協力の下、外出されたりと、出来る限り希望に沿えるようにしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を自分で行なうことが難しい方に対し、ご家族にもご理解して頂きながら、ご本人が不安にならない程度に適度な額を所持して頂いたり、必要な時にはいつでも使えるようにこちらでお預かりさせて頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお手紙など、ご自分で読めない方にはこちらが音読をしたり、電話自体はスタッフがかけているが、ご本人と家族にお話して頂き、意思疎通が難しい時などは時折間に入って支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは庭先の花や外の様子が見え、台所や洗面所には植物や花を飾り、入居者が季節を感じられるよう工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンを挟んでリビングが二つあり、それぞれに長イス(ソファ)を用意している為、その時々で一緒に過ごしたい方同士でのんびりとくつろがれている。また、スタッフと会話を楽しみたい時はキッチン前のカウンターのイスに座って頂くなど、状況に合わせて居場所作りをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が家で使っていた家具や小物など持ってきて頂き、家具の配置なども考慮しながら心地よい空間となるよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	浴室やトイレにはわかりやすいように表示をしたり、夜間帯の照明など、入居者様の生活動線の中で工夫できる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間接照明など、入居者様の生活動線の中で工夫できる所はしているが、身近な物で、ある物で工夫する・・・という面では、スタッフ全体の意識はまだ高くないと感じる。		